

2024 年度

神戸女学院大学大学院

人間科学研究科

博士前期課程・博士後期課程

試験問題



神戸女学院大学

目次

<博士前期課程>

【秋季試験】

臨床心理学分野	英語	1
	専門	2
環境科学分野	専門	3
健康科学分野	専門	5

【春季試験】

臨床心理学分野	英語	9
	専門	10

<博士後期課程>

【春季試験】

人間環境科学分野	英語	11
----------	----	-------	----

※試験問題の全部または一部非掲載について

<博士前期課程>

- ◆ 臨床心理学分野の「英語」（秋季試験・春季試験）は、著作権法上の問題から入試問題本文等について一部非掲載としています。
- ◆ 人間行動学分野は秋季試験・春季試験とも出願がなかったため、掲載していません。
- ◆ 環境科学分野、健康科学分野は、春季試験で出願がなかったため、掲載していません。

<博士後期課程>

- ◆ 臨床人間科学分野は、春季試験で出願がなかったため、掲載していません。

2024 年度（秋季）神戸女学院大学大学院入学試験
人間科学研究科 博士前期課程

臨床心理学分野 筆記試験問題（英語）

（解答はすべて解答用紙に記入すること）

下記の英文を読んで、以下の問いに答えなさい。

（本文省略）

出典：Eva Pattis Zoja (2002) “What Can a Jungian Analyst Learn from Sandplay?” Archives of Sandplay Therapy, vol.15, no.1 より。中略あり。

- 設問 1 下線部①について、本文に即して説明しなさい。
- 設問 2 下線部②を日本語に訳しなさい。
- 設問 3 下線部③を日本語に訳しなさい。
- 設問 4 下線部④について、本文に即して説明しなさい。
- 設問 5 下線部⑤のようになるのはどのような状況か、本文に即して説明しなさい。

臨床心理学分野 筆記試験問題（専門）

（解答はすべて解答用紙に記入すること）

問題 1

心理面接における守秘義務について述べなさい。その際に、以下に記す 3 点について必ず言及すること。

1. なぜ守秘義務が必要とされるのか
2. どのような場面で守秘義務が制限されるか
3. 守秘義務をクライアントとの間でどう扱うか（成人のクライアントとの初回面接を想定して論じなさい）

問題 2

次の用語のうち、A 群から 3 つ、B 群から 2 つを選んで、それぞれ 200 字程度で説明しなさい。

（A 群）

1. アクスラインによる遊戯療法の 8 原則（Virginia Axline's eight basic principles）
2. 生物—心理—社会モデル（bio-psycho-social model）
3. 異形連続性（heterotypic continuity）
4. アスペルガー症候群（障害）（Asperger Syndrome（Disorder））

（B 群）

1. 収束的思考（convergent thinking, Guilford, J.P.）
2. 平均の差の検定（test of the difference between two population means）
3. 静止顔（still face; Tronick, E.）

2024 年度（秋季）神戸女学院大学大学院入学試験
人間科学研究科 博士前期課程

環境科学分野 筆記試験問題（専門）

（解答はすべて解答用紙に記入すること）

以下3つの領域の設問の中から2つの領域を選び、解答用紙の選択欄に○（マル）をつけて、解答しなさい。選択欄に○（マル）のないものは採点しないので注意すること。なお、3つの領域の設問の配点はいずれも同じである。

（環境科学領域）

1. 地球温暖化に関する次の文章を読んで、空欄（ A ）～（ J ）に入る最も適切な語句を下の欄から1つ選び、番号で答えなさい。なお、同じ記号の空欄には同じ語句が入る。

太陽から地球に放たれた赤外線の一部および地表面から放射された赤外線は地球の上空に存在する（ A ）や（ B ）などに吸収され熱に変えられる。この赤外線を吸収する大気の成分を（ C ）という。（ C ）が増加する現象を地球温暖化といい、工業化や森林伐採などにより大気中の（ A ）の濃度が上昇することでこの現象が進行し、キリマンジャロの氷河の（ D ）や森林火災の（ E ）など、陸域においてもさまざまな悪影響が発生している。気温の上昇率の低い社会を構築するために、2015年に（ F ）が採択された。（ F ）では、世界共通の長期目標として産業革命からの平均気温の上昇を（ G ）よりも下方に抑える、すべての国が削減目標を（ H ）ごとに提出しそれを更新するといった1997年に決議された（ I ）よりも厳しい内容が盛り込まれた。また、（ I ）で採択された（ J ）も引き継がれることとなった。

語句

- | | | | |
|----------|------------|-------------|-------------|
| 1. 3年 | 2. 5年 | 3. 大阪議定書 | 4. 5°C |
| 5. 減少 | 6. 2°C | 7. ロンドン協定 | 8. 増加 |
| 9. IPCC | 10. 温室効果ガス | 11. 京都議定書 | 12. 消化 |
| 13. パリ協定 | 14. 一酸化炭素 | 15. 二酸化炭素 | 16. アルゴン |
| 17. 窒素 | 18. 水蒸気 | 19. 企業メカニズム | 20. 市場メカニズム |

2. 化学物質汚染に関する次の問いに答えなさい。

- (1) 近年選択毒性係数を重視した農薬が開発されるようになった。選択毒性係数を求める式を書きなさい。

- (2) 数種有機リン系殺虫剤の選択毒性係数を下の表に示す。この表の中の農薬で最もヒトに対して毒性が弱く害虫に対して有効な農薬の化合物名とその理由を答えなさい。

表 数種有機リン系殺虫剤の選択毒性係数

化合物名	選択毒性係数
シュラーダン	0.007
パラチオン	5
マラチオン	100
フェニトロチオン	150

(生態学領域)

3. 約40億年に及ぶ地球生命の進化について、二酸化炭素および酸素濃度の変遷とそれに伴う地球環境の変化を踏まえて、具体的な生物名（分類群名）等をあげながら500字程度で説明しなさい。

(科学教育領域)

4. SDGsを理科で展開する際の方法論と実践のアイデアについて、以下のキーワードを引用して300字以上500字以内で述べなさい。引用するキーワードはひとつでも複数でもよい。

キーワード

国際比較、 教材開発、 ジェンダー、 自然体験、 環境教育、
学社連携、 才能教育、 Socio-scientific Issues (SSI)、 STEM/STEAM教育

健康科学分野 筆記試験問題（専門）

（解答はすべて解答用紙に記入すること）

以下 4 領域の中から 2 つを選び、領域名の左側に付された選択欄に○（マル）をつけて、解答しなさい。選択欄に○（マル）のないものは採点しないので注意すること。なお、4 領域のいずれも配点は同一である。

（健康科学領域）

以下の問いに答えなさい。

問 1 日本人の緊張型頭痛の有病率として、最も適切なものはどれか。1 つ選び番号で答えなさい。

- ① 8.4% ② 15% ③ 22.4% ④ 60%

問 2 一次性頭痛と二次性頭痛の違いについて、疾患の例を挙げて説明しなさい。

問 3 片頭痛の症状として、**誤っている**ものはどれか。1 つ選び番号で答えなさい。

- ① 光や音に敏感になる。
② 頭の片側が、脈打つように痛い。
③ 吐き気などの消化器症状を伴うことは、まれである。
④ 発作的に痛みが起こる（痛い時と、痛くない時がある）。
⑤ 身体を動かすと、痛みが強くなる。

問 4 頭痛診断に用いる、最も一般的な画像診断法を 2 つ答えなさい。

問 5 頭痛の治療に用いる、西洋薬と漢方薬（いずれも内服薬（飲み薬））について、最低 1 つずつ答えなさい。

(食品科学領域)

糖に関する問いに答えなさい。

問1 次の二糖類についての記述で正しいものを1つ選び番号で答えなさい。

- ① スクロースは、グルコースとフルクトースが α -1,4 結合した二糖類である。
- ② マルトースは、グルコースとグルコースが α -1,4 結合した二糖類である。
- ③ ラクトースは、ガラクトースとグルコースが α -1,4 結合した二糖類である。
- ④ 二糖類にはイソマルトース、トレハロース、グリコーゲンがある。
- ⑤ スクロースの水溶液は還元性を示す。

問2 糖質の変化に関する記述で正しいものを1つ選び番号で答えなさい。

- ① でんぷんの老化は糖類を添加することで抑制される。
- ② もち米でんぷんはうるち米でんぷんよりも老化しやすい。
- ③ でんぷんが老化すると食味が向上する。
- ④ でんぷんをデキストリンに加水分解する酵素の α -アミラーゼは植物にのみ存在する。
- ⑤ でんぷんは一度老化しても、条件を整えばもとの構造に戻ることができる。

問3 フルーツの中には冷蔵庫で冷やすと甘味が強く感じられるものがある。次の問題に答えなさい。

(1) その理由について、150字以内で説明しなさい。

(2) 冷蔵庫で冷やすことで、甘く感じるようになる果物を2つ挙げなさい。

(精神医学領域)

問1 統合失調症について、次の問いに答えなさい。

(1) シュナイダーの一級症状を3つ以上挙げなさい。

(2) 薬物療法について簡潔に説明しなさい。

問2 自閉スペクトラム症(ASD)と注意欠如多動性障害(ADHD)の臨床的特徴と治療について簡潔に述べなさい。

問3 前頭側頭葉変性症(FTLD)の臨床的特徴について説明しなさい。

問4 強迫症の臨床的特徴と治療について、簡潔に説明しなさい。

問5 アルコール乱用/依存と精神疾患の合併について説明しなさい。

(生化学領域)

アミノ酸は生物を構成する物質のひとつとして非常に重要な生体分子である。アミノ酸について以下の問いに答えなさい。

問1 タンパク質を構成していない遊離アミノ酸は、体内に大量に貯蔵することができないため、何らかの方法で体内に供給する必要がある。ヒトの場合、遊離アミノ酸を体内に供給する主な方法を3つ挙げなさい。

問2 糖原性アミノ酸とケト原性アミノ酸について、その違いがわかるように100文字以内で説明しなさい。

問3 アミノ酸の分解によって生じる窒素の排出方法として尿素サイクルがある。尿素サイクルにおいて生成される生体分子のうち、クエン酸サイクルで活用される分子名を1つ挙げなさい。

問4 尿素サイクルの制御には、N-アセチルグルタミン酸と呼ばれる特殊なアミノ酸が重要な役割を担う。N-アセチルグルタミン酸が尿素サイクルを制御する際に作用する酵素名を1つ挙げなさい。

問5 アミノ酸は核酸塩基の合成に用いられる。核酸塩基のひとつピリミジンを合成するために用いられるアミノ酸を2つ挙げなさい。

2024 年度（春季）神戸女学院大学大学院入学試験
人間科学研究科 博士前期課程

臨床心理学分野 筆記試験問題（英語）

（解答はすべて解答用紙に記入すること）

下記の英文を読んで、以下の問いに答えなさい。

（本文省略）

（出典：Murray Stein (2022) “Four Pillars of Jungian Psychoanalysis.” Chiron Publications. ただし部分的に変更した箇所がある。）

設問 1. 下線部（1）の概念について本文に即して説明しなさい。

設問 2. 下線部（2）life span に関する Jung と Neuman の図式の違いについて説明しなさい。

設問 3. 下線部（3）transitional periods の特徴について説明しなさい。

臨床心理学分野 筆記試験問題（専門）

（解答はすべて解答用紙に記入すること）

問題 1

以下の事例を読んで、設問に答えなさい。

（事例）

A くん（4 歳 0 か月男児）は、言葉の遅れを心配され、両親と一緒に、小児科の発達外来を受診しました。幼い頃のお父さんもおとなしい子どもだったので特に問題だと思わず、様子を見ていたようです。しかし 2 歳下の妹が最近積極的におしゃべりを楽しむ様子を見て、お母さんは驚き、A くんに関節の問題があるのではと思ったとのことでした。

A くんは、幼稚園で仲の良いお友達はいませんが、聞き分けの良い子どもです。昆虫が大好きで、1 日中ずっと図鑑を眺めていることもできるそうです。

小児科に勤務する心理師/士であるあなたは、主治医から「新版 K 式発達検査 2001」を実施するよう指示を受けました。しかし A くんは検査室に入れず、硬い表情で母親の後ろに隠れています。

（設問）

これから、あなたが心理師/士として検査をする時、どのような点に注目して実施し解釈しますか。①検査者の振る舞い、②行動観察、③発達検査の結果の 3 点について、具体的に述べなさい。

問題 2

次の用語のうち、A 群から 3 つ、B 群から 2 つを選んで、それぞれ 200 字程度で説明しなさい。

（A 群）

1. 情動の波長合わせ (affect attunement; Stern,D.)
2. 通過儀礼 (rite of passage)
3. サイコロジカル・ファーストエイド (Psychological First Aid)
4. ピアカウンセリング (peer counseling)

（B 群）

1. 耐性の窓 (window of tolerance; Siegel,D.J.)
2. 可塑性 (plasticity)
3. アニマシー知覚 (Animacy Perception)

2024年度（春季）神戸女学院大学大学院入学試験
人間科学研究科博士（後期）課程
英語試験問題
（解答はすべて解答用紙に記入すること）

問題 次の文章を読み、以下の問いに日本語で答えなさい。

Introduction

In the last decade, Japan has made steady progress in addressing a range of traditional environmental problems, notably air emissions, water pollution, and waste management. (1) However, several more complex, long-term challenges have come to the fore requiring new and improved policies: in particular, climate change, sound materials management, and biodiversity conservation. Japan's policy responses to environmental pressures were developed in a period of sluggish economic growth compared with the main OECD, and many Asian, economies. Nevertheless, Japan remained OECD's second largest economy, a major player in world trade and among the largest exporters of technology-intensive goods. Manufacturing makes up a larger part of the economy, and of energy use, than in many other OECD countries. Relatively poor in natural resources and very densely populated, Japan has strong incentives to manage its land, energy and natural resources efficiently, particularly through innovative technologies and systems. More than two-thirds of the country is covered by forests, and the vast majority of the population, infrastructure and economic activities are concentrated in coastal plains and basins, resulting in considerable (2) environmental pressures in these areas.

Japan has taken important steps to integrate climate, energy and transport policies...

Energy, transport and climate policies are generally mutually supportive, with a strong focus on energy efficiency, renewable energy sources, infrastructure development and R&D. While Japan is a world leader in renewable energy technologies - especially photovoltaic - and generation capacity has increased, renewables continue to account for only about 3% of energy supply. (3) A negotiated agreement with the manufacturing sector to reduce greenhouse gas (GHG) emissions has been central to Japan's climate strategy. It may have helped Japan's major industrial sectors to become among the most energy efficient in the world. Unlike many OECD countries, Japan has made progress in the transport sector, where GHG emissions decreased by 12% between 2000-08. Technological advancement and tax incentives have helped to improve the average fuel efficiency of the road vehicle fleet considerably, and the rise in global oil prices has helped to moderate private car use. However, electricity consumption in the residential and commercial sectors has been growing steadily, largely due to the increased use of electric appliances which more than offset technical efficiency improvements. Overall,

Japan's climate policies focus on technological improvements and (4) pay insufficient attention to demand-side management, which would help to change consumer behavior.

Japan is at the forefront in moving from waste to sound materials management.

(5) Japan's 3Rs policy has focused on recycling and reducing final disposal, mainly in response to landfill constraints: securing disposal sites in major cities remains challenging, especially for non-municipal waste. Thus, Japan has strengthened its recycling system, extending it to specific waste streams, such as home appliances and end-of-life vehicles. This has resulted in a dramatic fall in the amounts of landfilled waste, and Japan achieved its 2010 target ahead of schedule.

Municipal waste generated per capita in Japan is well below the OECD average. Generation of municipal waste continued to decrease between 2000 and 2007, in spite of a rise in private final consumption. Charging for waste management has progressed, but cost recovery for municipal services is still low and should be improved by expanding the use of waste charging schemes. Further efforts are also needed in waste prevention; for example waste generation from manufacturing industry has increased faster than GDP, and inputs of imported resources, such as fossil fuels and metals, have continued to grow in line with the demand for energy and high-tech products. (6) Japan should strengthen the extended producer responsibility system in order to reduce generation and illegal dumping of waste; in particular, recovery costs should be further internalised in product prices.

(出典 : OECD Environmental Performance Reviews: Japan 2010
<https://www.oecd.org/japan/japan2010.htm> より引用 (一部省略・改変))

問1 下線部(1)を和訳しなさい。

問2 下線部(2)は一般的にどう定義されているか。簡潔に説明しなさい。

問3 下線部(3)を和訳しなさい。

問4 下線部(4)のような評価を受けた理由について、本文中で示された例を挙げて説明しなさい。

問5 下線部(5)の日本における3R政策の特徴を本文に即して簡潔に説明しなさい。

問6 下線部(6)を和訳しなさい。